

ことわざ動物編^{NO.1}

| | |
|----------------------|---|
| 頭の上の蠅を追え | 【読み】 あたまのうえのはえをおえ 【意味】 頭の上の蠅を追えとは、とかく人の世話を焼きたがる者に対して、それよりもまず自分自身のことをしっかり始末せよということ。 |
| 一富士二鷹三茄子 | 【読み】 いちふじにたかさんなすび 【意味】 一富士二鷹三茄子とは、夢に見るもの、特に初夢に見ると縁起が良いとされるものを、めでたい順に並べた句 |
| 井の中の蛙大海を知らず | 【読み】 いのなかのかわずたいかいをしらず 【意味】 井の中の蛙大海を知らずとは、知識、見聞が狭いことのたとえ。また、それにとらわれて広い世界があることに気づかず、得意になっている人のこと |
| 馬の耳に念仏 | 【読み】 うまのみみにねんぶつ 【意味】 馬の耳に念仏とは、人の意見や忠告に耳を貸そうとせず、少しも効果がなないことのたとえ。 |
| 梅に鶯 | 【読み】 うめにうぐいす 【意味】 梅に鶯とは、取り合わせのよい二つのもの、よく似合って調和する二つのもののたとえ。仲のよい間柄のたとえ。 |
| 海老で鯛を釣る | 【読み】 えびでたいをつる 【意味】 海老で鯛を釣るとは、小さな投資や労力で大きな利益を得ることのたとえ |
| 河童の川流れ | 【読み】 かつぱのかわながれ 【意味】 河童の川流れとは、名人や達人であっても、油断して簡単な失敗をすることがあるというたとえ。 |
| 亀の甲より年の功 | 【読み】 かめのこうよりとしのこう 【意味】 亀の甲より年の功とは、年長者の豊富な経験は貴重であり、尊重すべきものだということ。 |
| 狐の嫁入り | 【読み】 きつねのよめいり 【意味】 狐の嫁入りとは、日が照っているのに、雨がぱらぱら降ること。日照り雨。 <small>天気雨</small> |
| 虎穴に入らずんば虎子を得ず | 【読み】 こけつにいらずんばこじをえず 【意味】 虎穴に入らずんば虎子を得ずとは、危険を避けていては、大きな成功も有り得ないということのたとえ。 |
| 猿も木から落ちる | 【読み】 さるもきからおちる 【意味】 猿も木から落ちるとは、その道に長じた者でも、時には失敗をすることがあるというたとえ。 |
| 鯖を読む | 【読み】 さばをよむ 【意味】 鯖を読むとは、実際の数や年齢より多く見せかけたり、少なく言ったりしてごまかすことのたとえ。 |
| 立つ鳥跡を濁さず | 【読み】 たつとりあとをにごさず 【意味】 立つ鳥跡を濁さずとは、立ち去る者は、見苦しくないようきれいに始末をしていくべきという戒め。また、引き際は美しくあるべきだということ。 |
| 蝶よ花よ | 【読み】 ちょうよはなよ 【意味】 蝶よ花よとは、親が子供をこの上なく可愛がり、大切に育てるさま。 |

| | |
|---------------------|--|
| 猫に小判 | 【読み】 ねこにこばん 【意味】 猫に小判とは、価値の分からない人に貴重なものを与えても何の役にも立たないことのたとえ。 |
| 豚に真珠 | 【読み】 ぶたにしんじゅ 【意味】 豚に真珠とは、値打ちがわからない者には、どんなに価値のあるものを与えても意味がなく、むだであることのたとえ。 |
| 蛇に見込まれた蛙 | 【読み】 へびにみこまれたかえる 【意味】 蛇に見込まれた蛙とは、恐ろしいものや苦手なものを前にして、身がすくんで動けなくなることのたとえ。 |
| 俎板の鯉 | 【読み】 まないたのこい 【意味】 まな板の鯉とは、相手のなすがままに任せるより仕方ない状態のたとえ。 |
| 目白押し | 【読み】 めじろおし 【意味】 目白押しとは、多くの人や物事が込み合っただけで並んだり、続いたりすること。 【注釈】 「目白」は小鳥のメジロのことでメジロは秋から冬に群れをなして木に止まる性質があることからそのさまを「目白の押し合い」と言っていた。 そこから、子供が一行になつて押し合う遊びを「目白押し」と言うようになり、現在の意味になった。「目白の押し合い」ともいう。 |
| 羊頭を懸けて狗肉を売る | 【読み】 ようとうを掛けてくにくをうる 【意味】 羊頭を懸けて狗肉を売るとは、見かけと実質がともなっていないことのたとえ。宣伝や上辺は立派に見えるが、実際には粗悪なもの売ることのたとえ。 【注釈】 「狗」は犬のこと。 羊の頭を看板にかけておいて実際には犬の肉を売ってごまかすことから |
| 後の雁が先になる | 【読み】 あとのかりがさきになる 【意味】 後の雁が先になるとは、後から来た者が先を行く者を追い越すこと。 |
| 商いは牛の涎 | 【読み】 あきないはうしのよだれ 【意味】 商いは牛の涎とは、商売をするには、せっかちであってはならず、気長に辛抱強く続けるべきであるということ。 |
| あの声で蜥蜴食らうか時鳥 | 【読み】 あのこえでとかげくらうかほととぎす 【意味】 あの声で蜥蜴食らうか時鳥とは、人やものは見かけによらないもので、外見と中身が異なり驚かされることのたとえ。 |
| 蟻の想い天に届く | 【読み】 ありのおもいもてんにとどく 【意味】 蟻の思いも天に届くとは、弱小な者でも、一心に努力して願えば、希望を叶えることができるというたとえ |
| 磯の鮑の片思い | 【読み】 いそのあわびのかたおもい 【意味】 磯の鮑の片思いとは、片思いをしゃれて言うことば。 |

| | |
|----------------------|---|
| 鼬の最後っ屁 | 【読み】 いたちのさいごっぺ 【意味】 鼬の最後っ屁とは、窮地に追い込まれた時などに使う非常手段のたとえ。 |
| いつも柳の下に泥鰻は居らぬ | 【読み】 いつもやなぎのしたにどじょうはおらぬ 【意味】 いつも柳の下に泥鰻は居らぬとは、一度うまくいったからといって、その後も必ずうまくいくというわけではないということ。 |
| 犬も歩けば棒に当たる | 【読み】 いぬもあるけばぼうにあたる 【意味】 犬も歩けば棒に当たるとは、でしゃばると思わぬ災難にあうという戒め。また、じっとしていないで、何でもいいからやってみれば思わぬ幸運にあうことのたとえ。 |
| 兎の登り坂 | 【読み】 うさぎののぼりざか 【意味】 兎の登り坂とは、得意分野で実力を発揮することのたとえ。また、条件に恵まれて物事が調子よく進むことのたとえ。 |
| 鶉の目鷹の目 | 【読み】 うのめたかのめ 【意味】 鶉の目鷹の目とは、熱心に物を探すさま。またそのときの鋭い目つき。 |
| 蝸牛角上の争い | 【読み】 かぎゅうかくじょうのあらそい 【意味】 蝸牛角上の争いとは、些細なことや、狭い世界でのつまらない争いのたとえ。 |
| 蟹は甲羅に似せて穴を掘る | 【読み】 かにはこうらににせてあなをほる 【意味】 蟹は甲羅に似せて穴を掘るとは、人はそれぞれ分相応の考えや行いをすることのたとえ。 |
| 鴨が葱を背負って来る | 【読み】 かもがねぎをしょってくる 【意味】 鴨が葱を背負ってくるとはうまいことが重なりますます好都合であることのたとえ。 |
| 烏の行水 | 【読み】 からすのぎょうずい 【意味】 烏の行水とは、入浴時間がきわめて短いことのたとえ。 |
| 閑古鳥が鳴く | 【読み】 かんこどりがなく 【意味】 閑古鳥が鳴くとは、人が集まらずものさびしい様子。特に商売などがはやらず、さびれている様子をいう。 【注釈】 閑古鳥とは、カッコウの別称。 人のいない山里でカッコウの鳴き声がもの悲しく聞こえるさまから。「閑古鳥が歌う」とも。 |
| 腐っても鯛 | 【読み】 くさってもたい 【意味】 腐っても鯛とは、すぐれたものは多少悪い状態になっても、本来の価値を失わないというたとえ。 |
| 蜘蛛の子を散らす | 【読み】 くものこをちらす 【意味】 蜘蛛の子を散らすとは、大勢の者が四方八方に散って逃げるようす。 |
| 雉も鳴かずば撃たれまい | 【読み】 きじもなかずばうたれまい 【意味】 余計なことを言ったばかりに、自ら災いを招くことのたとえ |

| | |
|----------------------------|---|
| 窮鼠猫を噛む | <p>【読み】 きゅうそねこをかむ</p> <p>【意味】 窮鼠猫を噛むとは、絶体絶命の窮地に追い詰められれば、弱い者でも強い者に逆襲することがあるというたとえ。</p> |
| 魚は殿様に焼かせよ、餅は乞食に焼かせよ | <p>【読み】 さかなはとのさまにやかせよ、もちはこじきにやかせよ</p> <p>【意味】 魚は殿様に焼かせよ餅は乞食に焼かせよとは、魚や餅の上手な焼き方を言ったもの。また、仕事には適不適があるものだから、仕事をさせるときには適任者を選べということ。</p> |
| 鹿を追う者は山を見ず | <p>【読み】 しかをおうものはやまをみず</p> <p>【意味】 鹿を追う者は山を見ずとは、目先の利益を追っている者は、それ以外のことが見えなくなり道理を忘れてしまうことのとえ。一つのことにならなると、他のことに余裕がなくなること。</p> |
| 雀百まで踊り忘れず | <p>【読み】 すずめひやくまでおどりわすれず</p> <p>【意味】 雀百まで踊り忘れずとは、幼い時に身につけた習慣や若い時に覚えた道楽は、いくつになっても直らないというたとえ。</p> |
| 前門の虎、後門の狼 | <p>【読み】 ぜんもんのとら、こうもんのおおかみ</p> <p>【意味】 前門の虎後門の狼とは、一つの災難を逃れても、またもう一つの災難が襲ってくることのとえ。</p> |
| 捕らぬ狸の皮算用 | <p>【読み】 とらぬたぬきのかわざんよう</p> <p>【意味】 捕らぬ狸の皮算用とは、手に入るかどうかともわからない不確かなものに期待をかけて、ああだこうだと計画をねることのとえ。</p> |
| 虎の威を借る狐 | <p>【読み】 とらのいをかきつね</p> <p>【意味】 虎の威を借る狐とは、権勢を持つ者に頼って、威張る小者のこと。</p> |
| 掃き溜めに鶴 | <p>【読み】 はきだめにつる</p> <p>【意味】 掃き溜めに鶴とは、つまらないものの中に飛びぬけてすぐれた者や美しい者がまじっていることのとえ。</p> |
| 畑に蛤 | <p>【読み】 はたけにはまぐり</p> <p>【意味】 畑に蛤とは、見当違いなこと。また、あり得ないことを望むたとえ。</p> |
| 鳩が豆鉄砲を食ったよう | <p>【読み】 はとがまめでっぼうをくったよう</p> <p>【意味】 鳩が豆鉄砲を食ったようとは、突然の出来事に驚いて、目を丸くしているさま</p> |
| 獅子の子落とし | <p>【読み】 ししの子おとし</p> <p>【意味】 獅子の子落としとは、わが子に厳しい試練を与え、その器量を試すことで一人前に育てることができるというたとえ。</p> <p>【注釈】 自分の子に苦しい思いをさせて力量を試し這い上がってきた者だけをりっぱに育てるという意味から。</p> <p>獅子は自分の子を深い谷に投げ落として、這い上がってくる者のみ育てるという俗信に基づく。</p> <p>獅子とは百獣の王ライオンのことだが、実際にライオンが子を深い谷に落とすかということ、母親は非常に子煩悩で、父親は見た目によらず意気地がないから出来ない。</p> |